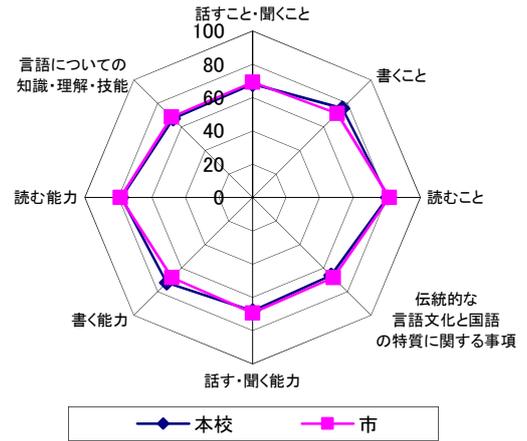


宇都宮市立雀宮南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	68.2	69.3	73.4
	書くこと	75.6	71.3	74.6
	読むこと	80.6	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.2	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	68.2	69.3	73.4
	書く能力	72.3	68.1	71.7
	読む能力	78.1	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	67.0	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

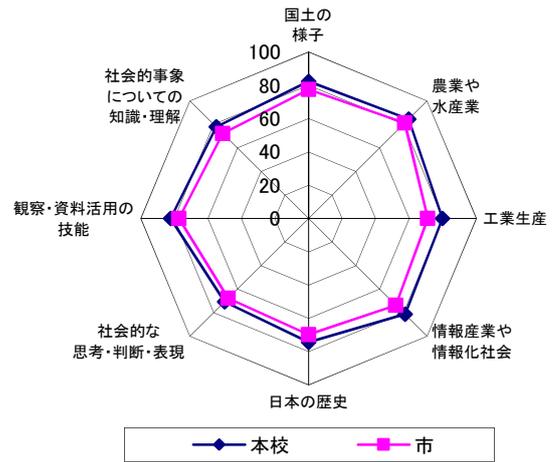
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○話し合いの内容を正しく聞き取り、内容を記述する設問は正答率が高い。日頃より話し合い活動を多く設けている成果だと考えられる。</p> <p>●話し方の工夫を聞き取ったり、話し合いの中でのそれぞれの役割を理解する設問は正答率が低くなっており、課題が見られる。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>今後指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動を経て学び合う場面を多く設定することを継続する。その中で、相手の意見と自分の意見を比較して考えを深めたり、話し合いをスムーズに進めるためにはどうすれば良いのかを考えさせる時間を設けていく。 話し合いを進める司会者を任せたり、友達の意見をまとめる機会を設けたりするなど、話し合いの役割を認識させ、自分の意見が伝わりやすくなるためにはどうすれば良いか考えながら話し合う時間を積極的に設け、話し合い活動の充実を図る。
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○自分の意見を書く設問は、市の平均正答率を大きく上回っている。宿題で日記に取り組みせたり、作文をする活動に意識的に多く取り組ませたりした成果だと考えられる。</p> <p>●事例を挙げて自分の意見に説得力をもたせる設問では平均正答率よりも低くなっている。説得力のある文章とはどんなものか考えることに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業中に作文を書かせたり、日記を宿題で取り組ませたりすることが、「書く」ということに対する抵抗感をなくすことにつながっていると考えられる。日記や作文に取り組ませることは継続して続けていきたい。 文章を書くときに、自分の経験を盛り込んだり、例えを盛り込んだりして説得力のある文章とはどんなものか考えて書く指導を積極的に取り入れる。
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○文章の内容を正確に読み取ることはおおよそできている。</p> <p>●登場人物の心情を読み取ったり、設問の目的に応じて文章の該当箇所と関連させて読み取ったりする設問はやや低くなっており、条件に応じて読み取ることが課題となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 読解力を付けさせるため、授業中に使用する教科書以外の長文に親しませる時間を多く取るようにする。朝の読書の時間や放課後に読書をする習慣を身に付けられるように家庭と連携して「読む」時間の充実を図る。 長文読解の問題に取り組む時間を設定し、質問では何を聞かれているのかを確認したり、該当箇所と関連付けたりする活動を増やす。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○熟語の構成などの基本的な語彙の理解はできている。</p> <p>●既習漢字の正答率がやや低い。また、尊敬語や謙譲語の使い方の正答率も低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字のみならず、既習漢字も復習する時間を多く設定する。宿題などでも新出漢字と既習漢字を抱き合わせさせて取り組ませる。 作文の活動では既習漢字を平仮名で記載する児童が多く見られるため、作文をする際には個別に確認をして、漢字の使い方や語彙力の向上を図っていく。

宇都宮市立雀宮南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	82.4	77.5	74.0
	農業や水産業	84.5	81.1	73.7
	工業生産	79.9	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	81.3	73.7	63.2
	日本の歴史	74.3	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	70.7	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	82.3	77.3	75.5
	社会的な事象についての知識・理解	77.9	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

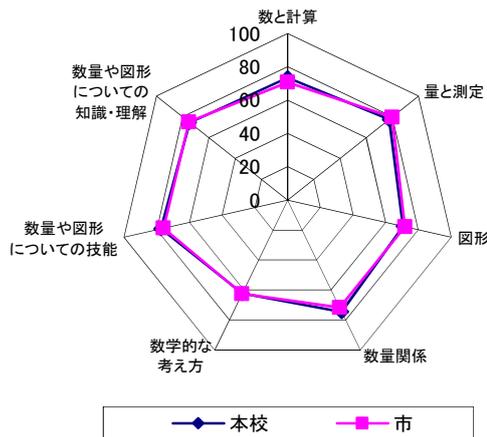
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○日本周辺の海洋名や国名など、正答率が高く日ごろから地図を使用した学習に取り組んでいる成果が表れている。</p> <p>●国名や海洋名が習得度が高い一方、国内の都市名と位置が一致せず、グラフの読み取りができていない。国内の主要都市の位置関係習得に課題が見られる。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>今後の指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の中で地図を使用した活動を多く取り入れることを継続する。日本周辺はもちろん、欧州やアフリカ諸国なども視野に入れて世界地図に親しませ、海洋も含めて日本との位置関係を考えさせる活動を取り入れる。 ・学習の中で都道府県、都市名が出てきた場合に地図帳で確認する。既習事項である国土の様子も振り返らせる時間を設け、日本国内の産業と結び付けて考えられるよう指導の充実を図る。
農業や水産業	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○提示された資料に何が書かれているのかを読み取る設問は正答率が高い。資料に何が表されているのかを考える活動の成果が出ている。</p> <p>●複数の資料から良い点や悪い点を考える設問の正答率が低く、資料の読み取りに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み取る活動に取り組ませる時間を意識的に多くする。その資料から分かることを児童同士で確認することにより、資料を深く読み取れるようにする。 ・複数資料からわかる課題を考えさせる活動を取り入れる。個人で取り組む時間の後、児童間で説明し合う時間を設定することにより、資料から考えて説明する力の習得を図る。
工業生産	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○工業製品とはどんなものかについての設問の正答率が高くなっている。具体物を取り上げながら学習に取り組んだ成果が表れている。</p> <p>●工業地帯や工業地域の立地についての設問は正答率が高いが、個人差が見られる。地図と結び付けて考えられない児童への支援が求められている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国土の特徴と結び付けて工業製品は作られていることを考える時間を設ける。教科書を使って習得することも重要だが、地図や運搬方法など複数の情報と結び付けて考えさせながら工業地域についての学習に取り組ませる。 ・複数資料から結び付けることが困難な児童に対しては、児童間で分かったことを伝え合う時間を設け、お互いの学びを深める。
情報産業や情報化社会	<p>平均正答率は、市の平均を大きく上回っている。</p> <p>○身の回りの情報メディアについての正答率が高く、基本的なことに関しては理解している。</p> <p>●メディアの特徴について、理解している児童とそうでない児童の正答率の差がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普段自分が使っているメディアについて、どのような利点や問題点があるのか自分の経験から考えさせる活動を積極的に取り入れる。 ・情報メディアを今後どのように使用すれば自分たちの生活がさらに豊かなものになるのか考えさせる。さらに児童間で意見交換をさせる時間を設けることで、今後情報メディアをどのように利用すればよいのか考えを深める時間を設ける。
日本の歴史	<p>平均正答率は、市の平均を大きく上回っている。</p> <p>○歴史分野に関してはどの設問も正答率が高い。既習事項を意識的に復習している成果が表れている。</p> <p>●堅穴住居の仕組みや人々の暮らし、江戸時代の著名人の功績の設問の正答率が市の平均正答率と比較すると低くなっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を積極的に自主学習で取り入れるように促していく。学年だより等で周知し、家庭と連携して取り組む。 ・資料集を活用し、各時代に活躍した人物と功績を結び付けて学習できるようにする。また、児童自身が調べ学習をして各時代の出来事を学び合う時間を多く設定できるように取り組んでいく。

宇都宮市立雀宮南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	73.5	70.8	65.9
	量と測定	77.6	79.9	77.0
	図形	70.6	71.8	74.6
	数量関係	74.5	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	62.3	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	77.4	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	74.7	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

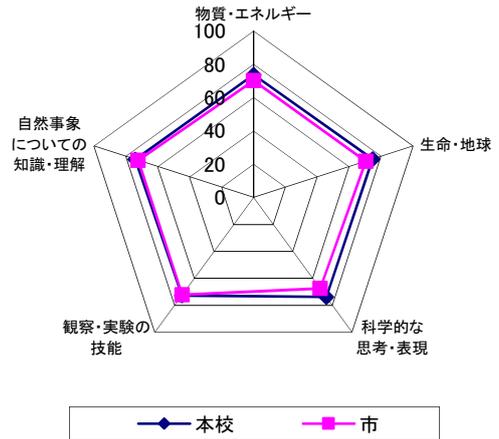
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より高い。 ○小数の乗法の計算問題では、市の平均正答率より高い。繰り返し計算問題を練習してきた成果であると考えられる。	・基本的な計算の定着を図るために、計算ドリル等を活用し、正しく計算できるよう繰り返し指導していく。また、引き続きティームティーチングや習熟度別学習を生かし、個に応じた指導の充実を図っていく。 ・基本的な計算の定着に向けた繰り返し練習を継続していくとともに、検算することの大切さを実感させていく。
量と測定	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ●体積や面積の問題では、市の平均正答率をすべて下回り、苦手としている。特に、ひし形の面積を求める式を選択する問題では、市の平均正答率より低い。ひし形の面積の公式が定着していないことに課題が見られる。	・体積や面積の公式を定着させるために、計算ドリル等を活用し、正しく求められるようにする。 ・解き方を説明する力を身に付けるため、自分の考えをまとめ、発表する活動や、図で表す活動を積極的に取り入れる。
図形	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○線対称な図形で対称の軸が4本あるものを選択する問題では、市の平均正答率より高い。繰り返し対称の軸を見付ける問題を練習してきた成果であると考えられる。 ●五角形の内角の和を求める式を選択する問題では、市の平均正答率より低い。多様な見方で、内角の和を求める式があることを理解していないことに課題が見られる。	・復習問題やドリル学習などを通して、学習の系統性を意識させていく。また、具体物を用いた活動を多く取り入れ、図形の定義や性質を理解できるようにしていく。 ・図形を用いて自分の考えを説明する力を高めるために、図で表す活動や、図を読み取る活動を積極的に取り入れる。 ・学習したことを復習する機会をより多く設ける。
数量関係	平均正答率は、市の平均より高い。 ○文字と式、比例・反比例、割合と比の問題では、すべて市の平均正答率を上回った。2つの文字を使って表された式について、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題では、市の平均正答率より高い。場面を図や表、数直線に表すことを使って問題を解かせてきた成果であると考えられる。	・割合と比については、場面を図や表に表すことを通して、基にする量や比べられる量を明確に捉えながら問題を解いていくようにする。 ・数直線などの視覚に訴えた活動を継続して行っていくとともに、児童の状況に応じて、習熟度別学習を生かし、個に応じた指導を行っていくようにする。

宇都宮市立雀宮南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	73.8	70.3	69.0
	生命・地球	74.6	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	73.8	67.5	66.4
	観察・実験の技能	72.8	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	74.1	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○活用問題への正答率が市の平均よりも高かった。実験や観察において、仮説と結果の繋がりを意識して取り組んだことで、知識の定着だけでなく、活用能力が身に付いた成果と考えられる。 ●腎臓の働きやリトマス紙の変化についてを問う問題への正答率が市に比べて低く、基礎的事項の定着に課題が見られる。	・引き続き児童の予想・仮説によって実験結果がどうなるのかを意識させ、見通しをもたせて実験に取り組ませることで、結果の暗記ではなく、論理的思考の育成を図れるようにする。 ・既習の知識の定着を図るために、家庭学習等で定期的に繰り返し練習を行っていく。
生命・地球	○「植物のつくりとはたらき」と「生物と環境」の内容については、全ての設問において市の平均を上回った。また、月の満ち欠けに関する設問は市の平均を大きく上回った。実験等で体験的な活動を増やし、実感を伴った理解を目指した成果と思われる。 ●腎臓の働きを問う設問への回答が市の平均を下回った。また、「拍動」という名称を問う設問も、	・引き続き実験や観察を適切に行うとともに、実験結果から分かることについての考察について、協働的な学びとなるよう指導する。 ・教科者内での扱いの大小にかかわらず、一つ一つの指導事項を丁寧に扱うとともに、学校でも繰り返し復習する機会をより多く設ける。

宇都宮市立雀宮南小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
話し合い活動の充実	授業の中で、意図的にペアやグループでの話し合いの時間を設けてたり、話し合いの仕方を具体例を挙げて指導したりして話し合いのしかたについて指導している。	「話し合いに進んで参加している」「話を最後まで聞いている」と答えた児童が多い結果となった。
少人数指導・習熟度別学習の充実	3学年以上の算数の学習において、毎時間少人数指導または習熟度学習を行い、きめ細やかな指導を行っている。	6年生の算数の4領域のうち、2領域で市の平均正答率を上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・家庭学習において、自分で計画を立てて自主学習として取り組めるようにしていきたい。
- ・学校と家での本を読む機会・時間を増やしたい。
- ・自己肯定感を感じられるような環境作りに努めたい。
- ・ノート指導の充実に努めたい。